

国指定 系魚川・能生の舞楽

あまつじんじゃ <天津神社の舞楽>

天津神社

舞楽が奉納される天津神社は、天津彦々火瓊々杵尊、天児屋根命、太玉命の三柱を祭神とし、奴奈川姫と大国主命を祭神とする奴奈川神社と並んで祀られます。

両社ともこの地方の古社で、かつて境内に所在した神宮寺とともに、幕府から寄進された100石を支配して、神仏習合の祭りがおこなわれていたと想像されます。

毎年4月10日と11日の春季大祭に奉納され、稚児による舞が多いことから「稚児の舞」と親しまれています。今日では10日は新衣装、11日は旧衣装で舞が舞われます。

この舞楽の歴史は古く、300年以上続くとされ、橘南谿の天明年間の紀行文『東遊記』にも記載があります。神楽や田楽とも、また風流踊（初期の歌舞伎踊）とも趣が異なることから、能や風流が出現する前に創作された日本の舞であろうといわれています。古い形式をよく残し、大阪四天王寺の流れを受け継ぎながらも郷土色が織り込まれており、その舞は実に美しく優雅です。

昭和55年1月28日に、能生の白山神社の舞楽とともに、重要無形民俗文化財に指定されています。

天津神社の舞楽

(昭和55年1月28日指定)



1. 振鉦 稚児二人

舞楽の初めに舞われる舞です。天冠をかぶり、鉦を両手でささげ、二人の稚児が同時に舞います。



2. 安摩 稚児一人

奈良時代までに南方から伝えられたとされる林邑楽の舞のひとつといわれ、帽子や面、装束も異国風です。手にばちをもち、4～6歳の稚児が舞います。



3. 鶏冠 稚児四人

鶏冠をかぶり、蝶の羽を背負い、菊の花を持って舞います。四人の稚児が花に遊ぶ蝶のように平和で美しい舞です。



4. 抜頭 大人一人

奈良時代までに南方から伝えられたとされる林邑楽の舞のひとつといわれ、父の仇の猛獣をさがし求め、格闘の末討ち取り、喜びいさんで山をくだる様子を表現しているとされています。



5. 破魔弓 稚児四人

頭には巻纒に綯（武人の装束で使われる冠飾り）をかけた冠をつけて、手には弓手をつけ、太刀を肩からななめにかけて、弓と矢を持って悪魔退治をする様子をあらわした舞です。



6. 児納曽利 稚児二人

二匹の龍がたわむれる様子をあらわしたとされる納曽利舞を、稚児が二人で舞います。面の表情は子どもらしくてやさしく、丸い形をした帽子もおもしろく、振袖姿もたいへん優美です。



7. 能抜頭 大人一人

天津神社独特の舞で、腹をふくらませ、能楽の翁面に似た面をつけて舞います。とんがり帽子と白の小袖に巴紋をつけている所など、すがすがしい装束です。



8. 華籠 稚児四人

天津神社独特の舞のひとつで、美しい装束を着た四人の稚児が籠に盛った花を撒きながら舞います。



9. 大納曾利 大人二人

奈良時代までに朝鮮から伝わったとされる高麗楽の舞のひとつとされ、双竜舞ともいわれます。恐ろしい面にばちを持って舞い、二つの竜が楽しげにはねる様子を表しています。



10. 太平楽 稚児四人

優美で可憐な武人の装束で舞い、その名のとおり、乱世を治め、正しい道に直すという意味をあらわすたいへんめでたい舞です。鉾と太刀を持って、堂々と雄々しく舞います。



11. 久宝楽 稚児二人

装束は太平楽と同じものを着て、太刀と楯を持って舞います。奈良時代までに南方から伝えられたとされる林邑楽の舞のひとつで、平和でおだやかな世であるよう祈る舞です。



12. 陵王 大人一人

昔、中国の蘭陵王が恐ろしい面をつけて陣頭に立ち、敵を勇壮に打ち破った様子をあらわした舞です。赤地に金欄をあしらった帽子に竜頭、つるし顎の面をつけ、豪壮な装束に緋色の房のついた細い金色のばちを持ち、太陽が沈むころ舞われます。

天津神社春季大祭日程

* 時間は天候等によって前後します。

4月10日	10時～	祭典	おしあげ 寺町両区の若衆が鶏翁を先頭に一の宮へと登社します。舞台上で神輿降臨祭が行われます。
	11時30分～	けんか神輿	押上・寺町両区の若衆が豊漁・豊作を祈り神輿のけんかを奉納します。2基の神輿が境内を周りながら10回前後ぶつかり、もみ合います。
	13時～	舞楽奉納	境内はけんか神輿の激しい雰囲気から一転、優雅な舞楽の世界へと変わります。
4月11日	13時～	舞楽奉納	10日に奉納されるものと舞は同じですが、旧衣装で舞われます。

交通のご案内

【電車】 JR「糸魚川駅」より徒歩10分
【自動車】 北陸自動車道
「糸魚川IC」より10分



天津神社の文化財

県指定

- ・木造奴奈川姫神像（昭和29年2月10日指定 1軀 彫刻）
- ・舞楽面（昭和56年3月27日指定 3面付5面 彫刻）
- ・木造女神坐像（昭和56年3月27日指定 3軀 彫刻）

市指定

- ・天津神社本殿（平成3年3月26日指定 1棟 建造物）
- ・木造天津社随神像（昭和47年3月25日指定 2軀 彫刻）
- ・木造奴奈川社随神像（昭和47年3月25日指定 2軀 彫刻）
- ・石造如来形坐像（昭和55年4月22日指定 1軀 彫刻）
- ・天津社大懸仏（昭和48年3月26日指定 2面 工芸品）